

光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



次世代を担う
若者たち
まさひろ
～甜菜の収穫作業を行う山本将大さん～
(紹介は12ページ)

2019.12
No.
552



J Aところ（川上和則組合長）は10月26日、収穫して間もない農産物をはじめとした产品を販売する収穫“菜”を北見市常呂町スポーツセンター前の百年広場で行いました。

当イベントは「常呂町で生産された安全・安心な農畜産物を多くの地域住民の方々に提供し、地元産食材・加工品のすばらしさを理解してもらい、地産地消の拡大に取り組む」ことを目的に始めたものです。

当日は小雨も混じる天気でしたが、常呂町の秋の味覚を求めて町内外から大勢の来場者が訪れ、終了の合図がかかるまで賑わっていました。

なお、令和元年台風災害による救援募金活動として災害募金コーナーを設置し、多くの義援金が集まりました。

味覚を求めて…

収穫“菜”にぎわう



乳しぼり体験!
上手にしぼれています

景品をもらってポーズ

令和元年台風災害募金コーナー



新鮮な秋野菜を求めてたくさんの方々が!



美味しいうどんを仕込む女性部の皆さん



常呂町産の秋の 第10回 JAとろり 収



平成を振り返って

川上組合長にインタビュー



本年の5月1日から元号が「平成」から「令和」に移り変わりました。

平成の間には、様々な農政の動きや農業人口の減少、農業経営体の変化などがありました。

今回、平成の農業者代表としてJAとこう川上和則組合長に本町農業やJAとこうについて振り返ってもらいました。また、平成の間に起きた話題性のある記事について過去に掲載した広報写真から振り返ります。

●平成を漢字1字で表すとどの漢字になりますか？

約30年間を漢字1字で表すのは難しいですが、「躍」という漢字が浮かびます。躍という漢字は、飛躍、躍進のように上向きな意味で使われることが多いと思います。そのように、平成の間には色々な出来事がありましたが上向きな印象を受けます。

●平成30年間で本町農業にどのような変化がありましたか？

昔は生計が立てられず離農する人もいたが、現在は、担い手の減少による農業者や組合員戸数の減少が目立つようになったと感じます。また機械化が進み昭和の時代のようなきつい農業ではなく各作物の反収も上がり、取扱い金額も大きくなりました。また平成の後半では、災害は多かったものの災害対策としての政策は順調に進んできていると考えています。

農業者が安定して営農できるように担い手が育つような条件や環境を整え、今後も引き続き災害に強い基盤整備作りを行っていきたいです。

●小野寺俊幸組合長（現会長理事）から川上組合長へとバトンがわたりましたが、今後のJAとこうについてどう考えていますか？

行政の合併により、地域の衰退が著しく町内で完

結出来ないことが多い現状であり、JAが地域をリードしていくことが重要なになってくると感じています。地域の衰退に歯止めをかけ、病院や老人ホームなどを維持し組合員の生活の利便性を高めていきたいと考えています。ただし、それには組合員の理解や協力が必要不可欠なことであると思っています。

●令和での、今後の農業について一言お願いします。

これから農業では、担い手の確保がカギとなります。農業のICT化も進んでいますし、常呂の農業の魅力を十分に発信して、後継者・担い手を確保し、安定した農業経営をするための基盤づくりをしていかなければなりません。

そのため、改めて組合員が常呂町農協に結集し、常呂の農業が未来永劫、組合員とともに発展していくことを願っています。



平成10年10月

「5,600t収容」
加工馬鈴薯貯蔵施設が完成

加工馬鈴薯貯蔵施設完成する

平成6年8月

農協と組合員を結ぶ
農業情報システム開通

FAXの運用開始される

平成4年9月

度は市内豪雨
富田川流域が冠水

大水害により多くの農作物が収穫不能に

平成元年3月

ところ
組合だより

平成に入って初の広報誌表紙

平成8年5月

初の試み
農業の自己引取り

安価供給を目指し、農業の自己引取り行われる（第1回）

平成17年12月



常呂町で映画撮影行われる

平成13年8月



平成12年5・6月



小野寺組合長が就任する

平成12年1月



20世紀最後
(2000年)の
久世篤史組合長
新年あいさつ

平成21年10月



JAとこ360周年記念事業DVD完成する

平成20年9月



常呂町小豆生産組合設立する

平成19年12月



たまねぎ集出荷貯蔵庫完成する

平成27年9月



アグリサポート事業
スタートする

平成26年6月



玉葱スープが「一村逸品大賞」
で金賞を受賞する

平成24年5月



平成24年1月



将来の組織・地域リーダー
を担うリーダー育成研修
「夢さがし塾」行われる(第1回)

平成29年6月



常呂漁協、岐阜県のJAいがわ川と
友好提携協定調印式を開く

平成28年10月



ところピンクにんにくを約30年
ぶりに全国市場へ出荷する

平成28年9月



4つの台風襲来で、堤防が初めて決壊。
全町面積の3分の1が浸水被害

平成30年5月



名誉組合員称号授与式
と功労者表彰式が
開かれる。
久世篤史元組合長が
名誉組合員に

平成29年8月



川上組合長が就任する

平成29年7月



小野寺組合長がJA北海道
中央会副会長に就任する

令和元年を
振り返って

記録的な大豊作 組合員みんなが笑顔の年に



常呂町農業協同組合

副組合長 江田 哲

過去最高の収量となる見込みです。酪農については3800t／年でほぼ計画対比95%となる見込みです。

歴史に残る 大豊作

JJA組合員が 一丸となり

農業を取り巻く情勢は非常に厳しく、TPP、TAG、EU・EPA等の国際貿易交渉の激しい進展によって日本農業にもたらす影響が500億円を超えるとも試算されています。今後もまぐるしく変わる農業情勢に対応していくには、農協組織の強さない基盤のもと、共同活動へ今まで以上の結集を図り、協力を必要になります。地改良事業では、今後事業継続に向け必要な火山灰確保のために、吉野地区的山林を取得、これにより効率工事を次世代まで繋げることができます。

新年が スタートして

昨年度は常呂町農業協同組合発足70年を迎え、今年度71年目そして元号が令和となつた新たなるスタートの年になりました。

年の天候は回復し、どの作物も良い生育状況になりました。9月以降の天候は安定し収穫作業、小麦播種作業、にんにく植付け作業が順調に推移しました。

主要作物の出来秋を見ますと、秋播き小麦きたほなみ全量1等で11・5俵／10a（計画対比115%）、ゆめちから1等2等での・6俵／10a（計画対比106%）、春播き小麦は全量1等で6・7俵／10aとなり計画対比118%となりました。馬鈴薯については澱粉用途収量で75俵／10a（計画対比100%）ですがライマン価が22%と高水準でした。加工用途は干ばつ

本年の常呂町農業を振りかえってみると、雪解けが進み春の播種、移植作業は順調に推移しましたが、5月20日に吹き荒れた暴風によって甜菜などで一部被害がありました。7月は干ばつ気味の天候で経過し小麦の刈取り作業が平年より早めに始まり順調に終える事が出来ました。8月は福山地区で降雨があつたも

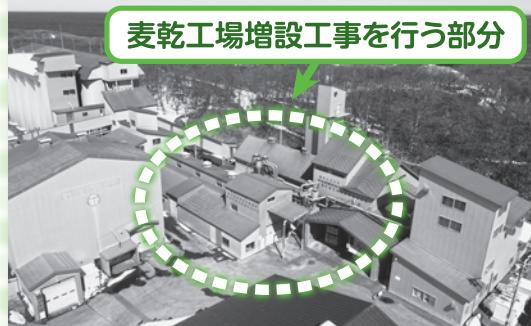
の影響はあったものの肥大が進み67俵／10a（計画対比116%）になりました。玉葱については春からの順調な生育のもと4・8基／10a（計画対比109%）になりました。小豆については初期生育が少々停滞したものの後半生育が進み5・2俵／10a（計画対比130%）となり適期収穫で良品質の結果となりました。にんにくについてはマルチ栽培の導入で収量が安定し595kg／10a（計画対比104%）となりました。甜菜については早期移植、播種その後の適切な管理で順調に生育し、日甜の出荷予想で8・4t／10a（糖分16・8

本年は、春先から小麦乾燥工場の改修工事を行っており、組合員には受入れ時に大変ご不便をおかけしましたが、ご協力により無事受け入れを完了することができたことに大変お詫び申し上げます。土地改良事業では、今後事業継続に向け必要な火山灰確保のため、吉野地区的山林を取得、これにより効率工事を次世代まで繋げることができます。

常呂農業の基盤をさらに発展させ持続可能な農業と暮らしやすい地域社会を皆さんと共に創っていくために組合員、役職員一丸となつて取り組んでまいります。



「麦乾工場増設工事」安全祈願祭



麦乾工場増設工事を行う部分

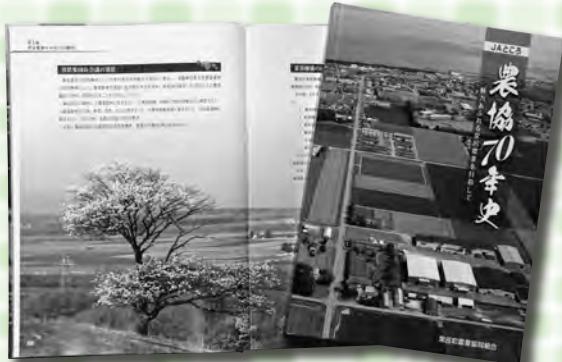
6月 「Twitter」スタート!



7月 「JAロゴマーク」 商標登録

令和元年の “できひと”

4月 「農協70年史」発刊!



5月 「日本農業新聞会長賞」受賞!



JAところ年末年始業務日程のお知らせ

休業日

区分	令和元年												令和2年													
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	日	月	火	水	木		
農協業務	信 用 部	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	
	本所キャッシュコーナー	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	
	常呂厚生病院キャッシュコーナー	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	
	事務所・資材課店舗	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	
共 同 給 油 所	平	常	平	常	平	常	平	常	平	常	午前中					午前中		平	常	平	常	平	常	平	常	
普 及 セ ン タ 一		平	常	平	常	平	常	平	常	平	常							平	常	平	常	平	常	平	常	
農 民 同 盟		平	常	平	常	平	常	平	常	平	常							平	常	平	常	平	常	平	常	
共 済 組 合	本 所 事 務 所											仕	事	納	め								仕	事	始	め
	家 畜 診 療 所											当番制（急患畜の対応は当番獣医が行います）														
	人 工 受 精 所											●	●	●	■		■	■	●	●						

▲印…配送業務は休業

●印…人工授精受付時間 午前：8時30分まで、午後1時まで

■印…午前：8時30分までの1回受付とします。（午前のみで午後は休み）

「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現を!

JA北海道大会実践フォーラム開催

JA北海道グループは、11月12日に札幌市教育文化会館において、JA北海道大会実践フォーラムを開き、全道からJA関係者約100人が結集しました。JAとじうからも江田哲副組合長を始め、JA役員と青年部及び女性部代表者など6人が参加しました。

J.A北海道大会実践フォーラムは、昨年のJA北海道大会決議事項の実践を通じた自己改革を加速させると、青年や女性組織、農協や連合会の役員を結集し、実践事例や課題をJAグループ全体で共有するとともに、JAグループ内外に実践状況の発信を行うために開催されています。

実践フォーラムでは、基調講演と



JA北海道大会実践フォーラムに参加したJA役員と関係団体の代表者の皆さん

作業が集中し労働力が不足している事が課題と訴えました。

2つ目の事例発表ではJAさっぽろ丸岡亮専務理事、JAふらの山岸秀司常務理事、JA北海道中央会高橋和則参事が「次世代につなげる

JA北海道大会実践フォーラムとして、日本経済新聞社の吉田忠則編集委員が「農業の未来と農協への期待」と題し、スマート農業や植物工場などについて農業を取り巻く情勢、ニーズ変化を解説しました。また、府県生産者や焼芋に合う品種を改良し市場を開拓したJAの事例も紹介されました。

JA北海道大会実践フォーラムは、農林水産省経営局の日向彰協同組織課長が「農協改革を巡る情勢・動向と農協に期待する」と題し、今後も農業者の所得向上に向けた取組を継続・強化しつつ、信用事業をはじめとする農協を取り巻く環境が厳しさを増す中で、地域農業を支える農協経営の継続性をいかに確保していくかが課題と訴えました。

事例発表では、JAしづく渡部徳智堂農部長が「農業所得の増大と多様な担い手の確保育成」と題し、請負型農業支援について、産地間連携による労働力確保の取組事例を発表しました。小清水では、外国人技能実習生を含む町内外の人材を農作業スタッフとして労働力の確保を行っていますが、動き付け時期に



閉会挨拶をする
小野寺俊幸中央会副会長
(当組合会長理事)

JAさっぽろでは、正組合員と准組合員で組合員モニター会議を開催し、札幌伝統野菜を生かした加工品をもっと美味しく味わうためのレシピの検討や直売所の活性化の意見交換など、有意義な意見交換になりましたと発表しました。JAふらのでは組合員向け直売所のクーポンの配布や、JA事業の解説本の作成などを実施している事を発表しました。

地域が抱える諸課題の解決に関して、多くのきっかけを得ることができました。

JA北海道中央会が人材交流を目的に研修の受け入れをしたバラグアイ日系農協中央会の安田ペドロ参事が、10月30日～11月1日の3日間で常呂町を訪れ、JAとじうで研修を受けました。安田参事は職員からJAとじうの事業活動や農業の特色について説明を受けたあと、町内各施設や圃場を視察しました。

収穫作業中の小豆圃場を訪れた安田参事は、「バラグアイでも穀物の栽培が盛ん。反収はどうですか?」と、同行した鈴木英夫生産部長に熱心に質問していました。

研修終了後、「短い滞在でしたが常呂町の魅力を体感しました。また日本に来る機会があったらぜひ再訪したい」と話しました。



小豆を取り、鈴木生産部長の説明を聞く安田参事(左)

バラグアイ農協中央会職員が常呂町で研修

常呂町で研修

オホーツクJA青年部協議会（桑名達也会長／JA清里町青年部）は11月11日、ホテルベルクラシック北見で第49回オホーツクJA青年部研修大会を開きました。



大会には管内の盟友175人、来賓6人が集まり、当JA青年部からも安藤貴彦部長をはじめ役員10人が参加しました。

今年度から、例年よりも多くの参加者を募ろうと、会場を変え、大ホールでの開催となりました。

JA青年部も、役員が撮影した映像を編集、渾身のCM作品を制作し、上映されました。

午後からは、桑名会長と北海道農協青年部協議会の米森弘副会長（JAきたみらい青年

写真上：JA綱領を朗唱する青年部役員
写真下：これからJA青年部について熱く議論されました



清井政幸さん・静子さん夫婦のデュエット

JA青年部研修大会（JAオホーツクJA青年部）が「コーディネーター、安藤青年部長を含む14JA青年部長がパネラーとして、パネルディスカッションを行い、「青年部とは」をテーマに討論を行いました。

その後、全参加者が14ブロックに分かれグループディスカッションを行い、「これからJA青年部に必要なこと」について議論を重ね、発表を行いました。

大会ではこの他、農村ホームステイ実績発表や表彰式、その後の懇親会では、純農bロングランプリ、アームレスリング大会が開催され、大いに盛り上がりました。

参加した部員が自分たちの青年部活動を魅力あるものにするために考える有意義な研修大会となりました。

ステップアップ!! 新たなステージへ

「JAとこの年金友の会 バス旅行実施される」

JJAとこの年金友の会（佐藤國昭会長）は10月28日～29日、バス旅行を実施し会員36人が参加しました。

2日間とも好天に恵まれ、参加者はバスの車窓から少し遅い紅葉を楽しむことができました。

夜の懇親会では恒例となった「ジャンケンゲーム」「ピンゴゲーム」「カラオケ大会」が開催され楽しいひと時を過ごしました。

参加者は、ホテル自慢の源泉かけ流し「美白の湯」に向かいつかり『また元気で参加しようね』と約束し帰途につきました。

温根湯温泉で日頃の疲れを癒す

「JAとこの年金友の会 バス旅行実施される」



懇親会でのひとコマ



立派に成長し我が家へ

78頭が退牧

秋も終盤に差し掛かり寒さの増した10月30日、農協川東牧場で酪農家と北見市常呂総合支所産業課の協力の下、若牛たちの退牧が行われました。

当牧場では、5月20日から酪農家の育成牛を預かり、飼育管理に努めてきました。栄養たっぷりの草が繁った放牧地で、入牧した頃とは見違えるほど逞しく成長した若牛78頭は、酪農家の「家に帰るよー！」の掛け声のもと、トラックに乗り



笑顔で牛をトラックに送り込む
石田雄三さん(左)

ラジコンヘリ 大活躍!!



●オペレーターの高度な技術で限なく防除されていました

JJAとうの(川上和則組合長)は、11月5日～8日の計4日間、秋まき小麦雪腐れ病防除を行いました。ヘリコプター防除は、月形町の新富地区防除組合、株式会社コハタに委託し実施しました。



●組合員皆さんの協力により適正に回収されました

次年度も廃プラのリサイクルから始まるクリーンな環境づくりにご協力をお願い致します。

育成牛を預けていた酪農家の1人は「立派に育って帰ってきてくれた。久しぶりの我が家に早く慣れて欲しい」と笑顔で話しました。

約5カ月ぶりに我が家牛舎へ戻りました。

今回、昨年を上回る84戸の組合員皆さんから農ボリ19,701kg、農ビ14kg、育苗箱904kg、農葉空容器4,069kg、農葉空袋214kg、エレメント容器99kg、ペール缶245kg、バッテリー36kg、二トボル7kgが回収されました。

クリーンな環境づくりを

人間ドックを受診しましょう!

3大死亡原因である「がん・心臓病・脳卒中」は早期発見が重要です。JAとこうでは、30歳以上の受診者を対象に基本検査の半額助成を行っています。健康新維持のため、必ず年1回の受診を行いましょう！年末年始は大変混み合いますので、早めの申込みをお願いします。

常呂町 産業振興公社より お知らせ

12月より営業時間が変更になります

- 12月～3月まで…9時～17時
- 土曜、祝日…休業

■営業時間などでわからない事がありましたら(54-3308)までご連絡ください。

行事予定表

12月1日(日)～12月31日(火)

12月 7日(土)

閉組日

12月14日(土)

閉組日

12月21日(土)

閉組日

12月23日(月)

第11回定例理事会

12月27日(金)

一般業務仕事納め

12月29日(日)

農休日

12月30日(月)

信用部仕事納め



第9回理事会報告(10月21日開催)

- ◆組合員規程の一部改正について
- ◆福利厚生規程の一部改正について
- ◆個人情報取扱規程の一部改正について
- ◆令和元年産加工生食馬鈴薯の仮渡金について
- ◆固定資産の取得について

〈報告事項〉

- ◆内部監査報告について
- ◆JA共済コンプライアンス点検結果について
- ◆固定資産の取得について(100万円以下計画外)
- ◆平成30年産加工生食馬鈴薯の本精算について
- ◆JA北海道大会実践フォーラムの開催について
- ◆パラグアイ日系農協中央会安田参事の研修受入について
- ◆農業委員会開催結果について

まちがい探し

右のイラストには左のイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探ししましょう。



応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えの番号と広報誌へのご意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。抽選で、アルミスコップをプレゼントします。

先月の当選者・解答

11月号のクロスワードパズルの答えは「コガラシ」でした。抽選の結果、次の方が当選しました。
おめでとうございます。

馬木 るり子さん(豊川)※()内は地区名です。

読者の声

★子どもたちといつも楽しく読ませていただいている。

(共立地区・小林 輝和さん)

★クロスワードパズルを解くのが面白かったです。

(豊川地区・清尾 好惺さん)



農業を担う青年たち

最終回

※今年度の新規就農者の皆さんを前月号から引き続きご紹介致します。

共立地区 大友 雅也さん 〈父：茂己さん〉

○生年月日

平成10年6月4日（22歳）

○最終学歴

北海道立農業大学校

○就農にあたっての抱負

家の仕事を一日でも早く覚え、高品質な農作物を作っていくたい！

○大学生活で学んだこと

農業に関する基礎技術や、全寮制であったので人との付き合い方についても学ぶことができました。

○趣味

ドライブ



収穫写真



大豆収穫



土佐地区
有マルコ小林産業園場

甜菜



福山地区
小野寺靖さん園場

- 編集後記
- 広報も12月号となり、令和元年も残すところ1ヶ月ですね。新年を気持ちよく迎えるためにも大掃除をしっかりと行いましょう!!
 - 本年は農業を担う青年たちという表紙テーマで広報誌「光と風の大地」を発行して参りました。読者の皆様からの評判も良く、他地区の若い農業者が表紙を飾ることで周りの方の農業意欲にも繋がったのではないかでしょうか。
- 《営農企画課：広報担当》

次世代を担う
若者たち

まきひろ
甜菜の収穫作業を行う山本将大さん

今月の表紙は、岐阜地区・常呂町4Hクラブ会長の山本将大さん（28）です。甜菜の収穫作業を行っているところを取材させて頂きました。

収穫作業の合間に、これから農業への抱負と4Hクラブ員に向けての話を聞くと「周りの経営主と対等に経営の話や情報交換についてできるように知識を蓄えていきたい。4Hの活動は農業の話だけではなく、他地区との仲間づくりや情報交換ができる場もあるのでこの時間を大切にしてほしい」と話してくれました。

農作業中にも関わらず、取材、撮影にご協力いただきましてありがとうございました。

